

2022年10月入学
鹿児島大学大学院人文社会科学研究科
外国人留学生特別選抜 指定校推薦入試
(博士前期課程)

学生募集要項

法 学 専 攻
経済社会システム専攻
人間環境文化論専攻
国際総合文化論専攻

国立大学法人 鹿児島大学

郵便番号 890-0065 鹿児島市郡元一丁目21番30号
電話番号 +81-(0)99-285-7646 (法文学部大学院係)

人文社会科学研究科の教育目標及び方針

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

鹿児島大学大学院人文社会科学研究科は、全学の学位授与の方針及び人文社会科学研究科の教育目標に鑑み、以下に示す方針に基づいて、学位を授与します。

博士前期課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得し、修士論文等の審査及び最終試験に合格した者に修士の学位を授与します。

1. 研究倫理を基盤とし、フィールドワークやリサーチワーク等を通じて体系的に習得した人文社会科学分野の専門的な知識に基づいて調査と分析を行う基礎的な研究を行うことができる能力
2. 人文社会科学分野の専門的な知識を実践的な問題解決に結びつけ、地域と国際社会の発展に貢献できる能力

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

鹿児島大学大学院人文社会科学研究科は、全学の教育課程編成・実施の方針及び人文社会科学研究科の教育目標に掲げる人材を育成するために、以下に示す方針に基づいて、教育課程（カリキュラム）を編成のうえ、実施します。

1. 進学から学位取得に至るまで系統性のある教育課程を編成
 - ① 博士前期課程においては、研究倫理に則り、人文社会科学分野の専門的な知識と方法を体系的に学ぶために、専門分野ごとの演習・講義等を開設します。また、修士論文等を計画的に作成していくために、論文指導に関する授業科目を開設します。
 - ② 博士前期課程においては、人文社会科学分野の専門的な知識を実践的な問題解決へと結びつけ、地域と国際社会への理解やコミュニケーション能力を高めるために、フィールド調査を重視したプロジェクト研究や外国語論文指導等の授業を開設します。また、社会人学生のリカレント教育のために、特別演習等を配置するとともに、昼夜開講制や修士論文によらない学位取得のための教育コースを設けます。
2. 目的・目標に応じた方法による教育の実施
学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行います。
3. 厳格な成績評価の実現
各科目において教育・学修目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行います。

III. 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

<人文社会科学研究科の教育目標>

人文社会科学研究科は、鹿児島大学大学院唯一の人文社会科学系分野の研究科として、人文社会科学の高度な専門知識と研究能力を身につけた人材の育成を目指します。そのために次の教育目標を掲

げます。

1. 人文社会科学分野の高度な専門知識と技能を身につけ、諸課題を発見・探究・解決する能力を育みます。
2. 高い研究倫理を身につけ、自他を客観的に省察し研究を遂行する態度を養います。
3. 人文社会科学分野の専門的な知識と技能を活かして、地域の社会と文化の発展に貢献できる能力を育みます。
4. グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる能力を育みます。

<入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）>

1. 求める人材像

人文社会科学研究科は、教育目標に定める人材を育成するため、次のような学生を求めています。

- ・学士としての確かな基礎学力と、人文社会科学に関する基礎的教養を有する人
- ・専攻する専門分野についての体系的な知識と技能を有する人
- ・主体的に学ぶ態度を身につけ、専攻する専門分野に関連する諸問題に関心を持つ人
- ・専攻する専門分野について自ら課題を発見・探究・解決しようとする意欲に満ちた人
- ・地域の社会や文化について深く理解し、地域に貢献できる能力を身につけたい人
- ・グローバルな視野をもち、国際社会に貢献できる能力を身につけたい人

2. 入学前に身につけておいて欲しいこと

- ・人文社会科学に関する基礎的教養
- ・専攻する学問分野についての体系的な知識と深い関心
- ・専門的な文献の内容を的確に理解する能力
- ・自己の見解や研究成果などを文章や口頭によって適切に表現できる力

3. 入学者選抜の基本方針

このような学生を適正に選抜するために、各専攻の特性に応じた適切な方法で多様な選抜を実施し、以下の点を総合的に判断して選抜します。

- ・人文社会科学に関する基礎的教養
- ・専攻する学問分野についての体系的な知識
- ・研究に対する意欲
- ・研究計画の明確性

目 次

	頁
鹿児島大学大学院人文社会科学研究所（博士前期課程）の概要	1

募集要項

1. 募集人員	2
2. 出願資格	2
3. 入学検定料	2
4. 出願手続	3
5. 出願に必要な書類等	4
6. 試験日，試験科目，選抜方法	5
7. 合格者発表	5
8. 入学手続	5
9. 注意事項	6
10. 国際交流会館	6
11. 入試情報の公開・開示	6
12. 個人情報の取扱い	7

教育目標，アドミッション・ポリシー，教育目的・研究内容

【法学専攻】	8～11
【経済社会システム専攻】	12～16
【人間環境文化論専攻・国際総合文化論専攻】	17～25

付録

入学願書等

外国人留学生特別選抜 指定校推薦入試 出願関係書類

鹿児島大学大学院人文社会科学研究科（博士前期課程）の概要

本研究科（博士前期課程）は人文科学と社会科学の総合的な研究科として、「法学専攻」、「経済社会システム専攻」、「人間環境文化論専攻」、「国際総合文化論専攻」の4専攻を置き、近年急激に変化する時代と社会、特に南九州の地域社会に顕現している諸問題に的確に対処しうる高度専門職業人の養成と社会人の再教育を行うことを使命としている。

それぞれの専攻ごとの教育内容は以下のとおりである。

（1）法学専攻

法的及び法政策的課題に応えうる能力の涵養を目指し、法・行政・政治に関する知識を付与するとともに、理論的・実践的に問題を解決できる能力を高める教育を行う。

（2）経済社会システム専攻

過疎化・高齢化・産業の停滞が進む中で、南九州地域が抱えている課題について、経済学・経営学・社会学による多面的・専門的な教育を行う。また、国際化・情報化の進展に伴い緊密化する南九州とアジア諸国の国際協力のあり方について広い視野から考察できるような教育を行う。

（3）人間環境文化論専攻

個別的社会のフィールドワークを行うことにより、自然、文化、歴史的環境の相互関係についての理解や地域的发展と保存のあり方を考察し、人間の行動と文化について環境との関わりから教育する。

（4）国際総合文化論専攻

今日の社会と文化の国際化に適切に対応できる人材の育成をめざして、日本及び世界の諸国の思想、言語、文学、歴史等について国際的・総合的な視野に立って教育を行う。

なお、本研究科では法学、経済学、社会学、人文諸科学という学問対象と研究方法とを異にする4専攻から構成されている特徴を活かして、それぞれの専攻の基礎的・専門的な教育研究に加えて、他専攻における異なる学問対象と研究方法をも合わせて修得させ、現代社会の動向に柔軟に対応できる能力を養成することを、教育課程の基本方針としている。

募集要項

1. 募集人員

専攻	募集人員
法学専攻	若干人
経済社会システム専攻	
人間環境文化論専攻	
国際総合文化論専攻	

2. 出願資格

外国人留学生特別選抜 指定校推薦入試を受験できる者は、日本国籍を有しない者で、次の（１）の（ア）～（ケ）のうちのいずれかの大学を2022年9月までに卒業見込みの者で、かつ（２）～（４）の条件を満たす者とする。

- （１）（ア）湘潭大学（中国）
（イ）山東師範大学（中国）
（ウ）華東政法大学（中国）
（エ）大連海事大学（中国）
（オ）東北大学（中国）
（カ）内蒙古大学（中国）
（キ）内蒙古師範大学（中国）
（ク）上海海事大学（中国）
（ケ）長江大学（中国）
- （２）2022年9月までに、外国において、学校教育における16年の課程を修了見込みの者
- （３）所属大学の指導教員が推薦する者
- （４）日本語能力試験（N1）に合格した者、又は2022年3月までに合格見込みの者

3. 入学検定料

入学検定料：30,000円

出願に際して入学検定料の納入が必要となる。入学検定料の納入は、出願前に必ず行うこと。入学検定料を納入しない場合、出願を受け付けないので注意すること。

入学検定料の納入方法は次のとおりとする。

- （1）日本国外からの送金

以下に示した要領で、入学検定料30,000円を金融機関から海外送金してください。

送金に要するすべての手数料は、受験者が負担すること。（外国送金依頼書の「依頼人負担」にチェックを入れ、通信欄に“PAY IN FULL. DON'T CONVERT.”の文言を記載すること。）送金後、外国送

金依頼書の写しを出願書類に同封すること。

- ①「電信送金 (Telegraphic Transfer)」で送金すること。
- ②支払い方法を「通知払い (Advice and Pay)」とすること。
- ③送金目的を「入学検定料 (Application Fee)」とすること。
- ④送金は円建てで行い、金額に過不足が生じないようにすること。
- ⑤送金後、直ちに納入したことを、法文学部大学院係 (ssmcdc@kuas.kagoshima-u.ac.jp) までメールで連絡すること (氏名は、漢字及びアルファベットの両方で表記すること)。

送金先銀行名：鹿児島銀行	Bank's Name: Kagoshima Bank
支店名：鴨池支店	Branch: Kamoike Branch
口座番号：普通預金 1 2 6 2 0 6 8	Account Number: Ordinary Deposit 1262068
銀行コード：KAGOJPJT	Swift Code: KAGOJPJT
受取人： 国立大学法人 鹿児島大学長	Beneficiary's Name: Kagoshima University
銀行住所： 郵便番号890-0056 鹿児島市下荒田 4 - 4 6 - 2 0	Bank's Address: 4-46-20 Shimoarata, Kagoshima, 890-0056, Japan
受取人住所： 郵便番号890-8580 鹿児島市郡元 1 - 2 1 - 2 4	Bank's Address: 1-21-24 Korimoto, Kagoshima, 890-8580, Japan

(2) 日本国内での払い込み

別紙所定の用紙により、郵便局の窓口で、入学検定料30,000円を払い込み、受け取った「振替払込受付証明書(お客さま用)」の日附印欄の押印を確認の上、出願書類に同封すること。

なお、払込手数料は依頼人負担です。

4. 出願手続

(1) 出願期間及び出願方法

出願期間	2022年1月12日(水)～1月18日(火) ただし、土・日曜日を除く。
------	--------------------------------------

郵送の場合は、必ずEMS(国際スピード郵便)を利用し、期限内に必着のこと。

代理人が出願書類を持参する場合、受付時間は日本時間の9時から16時までとする(12時から13時を除く)。

(2) 出願書類提出先及び問い合わせ先

鹿児島大学法文学部大学院係

〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番30号

電話 +81 - (0)99 - 285 - 7646 (日本語のみ対応)

問い合わせは日本時間の9時から17時まで(12時から13時を除く。土・日曜日、祝日を除く)。

学生募集要項はウェブサイトのみでの公開となり、冊子等の配付は行いません。

5. 出願に必要な書類等 (提出された書類等は一切返却しない。)

(1) 入学願書	本研究科所定の用紙に必要事項を、日本語で記入すること。 ※履歴事項欄の学歴については、受けた学校教育のすべてを記入すること。
(2) 受験票・写真票	本研究科所定の用紙に必要事項を日本語で記入し、写真は、出願前3か月以内に撮影した正面上半身無帽のもの(縦4.5cm×横4cm)を貼付すること。
(3) 入学検定料納入証明書類	外国送金依頼書の写し又は振替払込受付証明書(お客さま用)
(4) 学業成績証明書	所属大学の学長(学部長)又は学校長が作成し、厳封したもの。
(5) 修了見込み証明書	所属大学の学長(学部長)又は学校長が作成したもの。
(6) 推薦書	所属大学の指導教員の推薦書。本研究科所定の様式(様式A-1)により、日本語又は英語で記したもの。
(7) 研究計画書 (法学専攻・経済社会システム専攻のみ)	【法学専攻】 入学後研究したいテーマについての研究計画書(所定の様式(様式A-2)を用い、日本語で3,000字程度、ワープロ原稿が望ましい)を提出すること。 【経済社会システム専攻】 所定の様式(様式A-2)を用い、日本語で3,000字以上4,000字以内。ワープロ原稿が望ましい。
(8) 研究報告書等 (人間環境文化論専攻・国際総合文化論専攻のみ)	【人間環境文化論専攻】【国際総合文化論専攻】 卒業論文を執筆中の者は、その概要をまとめた報告書を下記の要領に従って提出すること。 専攻希望分野の論文、又は卒業論文に準ずる程度の研究報告書(所定の様式(様式A-3)を用い、日本語で3,000字以上。ワープロ原稿が望ましい。)
(9) 日本語能力を証明する書類	日本語能力試験(N1)の成績証明書の写し。 N1を受験中の者は、受験票の写し(試験結果が届き次第、成績証明書の写しを提出すること)。 N1に不合格の場合には、入学を許可しないので注意すること。
(10) 身分を証明する書類	政府又はこれに準じる機関が発行した身分証明書の写し。
(11) 履歴書	本学所定の用紙を用い、日本語で記載すること。出願前3か月以内に撮影した正面上半身無帽のもの(縦4.5cm×横4cm)を貼付すること。

(注) 出願書類のうち、日本語以外の言語で書かれたものは、すべて日本語の訳文を添付すること。
なお、提出された書類については、学務業務のために利用し、他の目的には利用しない。

6. 試験日，試験科目，選抜方法

(1) 試験日及び試験科目

試験日	試験科目
2022年3月3日(木) (予備日：2022年3月4日(金)) 詳細な試験時間と試験場は受験者に後日通知する。	<日本国外の受験者> スカイプによる面接 <特別聴講学生等として本学又は日本の他大学に在学中の受験者> 直接面接

(2) 各専攻の面接の概要

専攻名	面接の概要
法学専攻	出願時に提出された研究計画書に基づき，専門分野に関する知識を問い，併せて日本語能力を審査する。
経済社会システム専攻	
人間環境文化論専攻	出願時に提出された研究報告書又は研究論文に基づき，専門分野に関する知識を問い，併せて日本語能力を審査する。
国際総合文化論専攻	

(3) 選抜方法

入学者の選抜は，面接及び学業成績証明書等の書類を総合して行う。

【配点：面接 100点，学業成績証明書 50点，研究計画書 50点（法学専攻及び経済社会システム専攻），研究報告書又は研究論文 50点（人間環境文化論専攻及び国際総合文化論専攻）】

7. 合格者発表

2022年3月22日(火)

法文学部玄関に掲示するとともに，上記の日付で，各所属大学の窓口教員宛に合否の通知を送付する。なお，電話等による照会には，一切応じない。

8. 入学手続

(1) 入学手続日時

2022年9月12日(月)～9月22日(木) ただし，土・日曜日，祝日を除く。

受付時間は日本時間の9時から16時までとする（12時から13時を除く）。

(2) 入学手続場所

鹿児島大学法文学部大学院係で手続きを行うこと。（郵送も可）

(3) 入学料及び授業料

入学料 282,000円（予定額）

授業料 後期分 267,900円（年額535,800円）（予定額）

* 授業料改定が行われた場合は，改定時から新授業料が適用される。

* 入学料及び授業料については，それぞれ免除及び徴収猶予制度があるので，希望者は早めに手続きについて鹿児島大学法文学部大学院係（電話 +81 - (0)99 - 285 - 7646）まで問い合わせること。なお，入学手続後に入学を辞退する場合，入学料徴収猶予又は入学料免除の申請は無効となり，入学料を納入していただくこととなります。

9. 注意事項

- (1) 出願にあたっては、教員の専門分野、研究内容をよく検討すること。
- (2) 出願書類に不備がある場合は受理しない。
- (3) 出願後の提出書類の内容変更はいかなる事由があっても認めない。
- (4) 一度受理した出願書類は、いかなる理由があっても返還しない。
- (5) 既納の入学検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しない。
 - ア. 検定料を払い込みしたものの、出願手続きをしなかった場合
 - イ. 検定料を誤って二重に払い込みした場合
- (6) 障害（学校教育法施行令第22条の3に準ずる身体障害の程度）がある場合は、出願前に本研究科と相談をすること。
- (7) 受験票は、入学検定料の納入を確認後に窓口教員宛に送付されるので、窓口教員から受け取り、試験当日は受験票を必ず持参すること。
- (8) 受験票は、入学手続きの際必要となるので紛失しないこと。
- (9) 不明な点は、鹿児島大学法文学部大学院係（電話 +81-(0)99-285-7646）へ問い合わせること。

10. 国際交流会館

本学には、外国人留学生の居住施設として国際交流会館がある。合格者の国際交流会館への入居申請は、法文学部大学院係が行う。ただし、満室等により入居できない場合がある。なお、国際交流会館に入居を希望しない者は、2022年7月15日（金）までに鹿児島大学法文学部大学院係（電話 +81-(0)99-285-7646）へ連絡すること。

11. 入試情報の公開・開示

入試情報の公開

人文社会科学研究科のホームページ（URL <https://gs.kadai-houbun.jp/>）に、以下のとおり公開する。

公開事項	公開時期
志願者数	試験終了後
受験者数	試験終了後
合格者数	合格者発表後
入学辞退者数 入学者数	2022年10月1日以降

入試情報の開示

- (1) 評価方法は、請求に基づき法文学部大学院係で開示する。
開示の時期は、試験終了後とする。
- (2) 受験者本人からの請求に基づき、面接等の評価、合否の別を開示する。開示を希望する者は、法文学部大学院係（電話 +81-(0)99-285-7646）に問い合わせること。ただし、開示期間は合格者発表後2か月間とする。

12. 個人情報の取扱い

「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」の制定に伴い、出願書類等により志願者から提出された個人情報については、入学者選抜・合格者発表・追跡調査及びこれらに付随する事項並びに入学後の学務業務における学籍・成績管理、修学指導等、授業料の債権管理を行うためのみに利用し、他の目的には利用しない。

法 学 專 攻

1. 法学専攻（博士前期課程）の教育目標

法学専攻は、法律学・政治学・政策学の専門的知識を備え、法的・政策的課題に対処できる高度職業人の育成を主要な教育目標にしている。

2. 法学専攻の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

①法学専攻の求める人材像

- 1) 法的・政策的基礎教養を習得している人
- 2) 専攻する学問分野についての体系的な知識を習得している人
- 3) 現代社会が直面する諸問題に真剣に取り組む意欲がある人
- 4) 高度な専門的知識と総合的判断力を備える職業人を目指す人

②入学前に身につけておいて欲しいこと

- 1) 法学・政治学・政策学に関する基礎的教養
- 2) 専攻する学問分野についての専門的知識

③入学者選抜の基本方針

専門研究を行っていくための適性や能力を総合的に判断するため、次の方法で入学者選抜を行う。

1) 一般選抜

学力検査及び面接の結果を総合して選抜する。

2) 社会人特別選抜

- (1) 学力検査及び面接の結果を総合して選抜する。
- (2) 専門知識の有無を問うとともに、志望の動機・将来の目標・研究計画の明確さなどに重点を置いて判断する。
- (3) 社会人特別選抜の実践教養コースのみ、面接の結果により選抜する。

3) 外国人留学生特別選抜

- (1) 学力検査及び面接の結果を総合して選抜する。
- (2) 指定校推薦入試は、面接の結果、成績証明書及び研究計画書などの審査結果を総合して選抜する。
- (3) 大学院で学ぶのに支障のない日本語能力を有しているかを問う。

法学専攻の教育目的・研究内容

1. 教育目的

現代の法学教育は、基本六法の解釈・適用技術を習得することに加えて、種々の社会的個人的紛争に対応できる実践的な法的処理能力を習得することを重視している。自治体でも地方分権化に伴い政策立案・法制化能力を有する人材が求められ、また企業でも国際化・情報化に対応できる高度の法的知識をもった人材が求められている。今日、専門的職業における生涯学習時代が到来し、法学・政治学分野でも資格取得者に対する社会的評価が高まっている。法学専攻では、現代の学問的・社会的要請に充分に対応することができるように、伝統的な市民法分野の教育を基礎に、政策科学分野や法交渉分野の教育をも充実させている。

2. 教育内容

法学専攻では法学・政治学分野の高度の専門教育を行う。伝統的な歴史的・理論的・比較法的・実証的手法による教育研究に加え、特に地域の法的及び法政策的課題に応えうる能力の涵養を目指し、総合的・実践的教育に取り組む。また、自治体職員や教員を中心とした公務員及び地域経済の担い手であるビジネスパーソン等のリカレント教育も重視している。同時に、各種公共団体などと連携し、地域の法的・政策的諸課題の解決のための共同研究に取り組んでいる。

法学専攻における教育内容は次のとおりである。

- (1) 現代社会が直面する諸問題についての理論的な研究を行う一般学生及び外国人留学生のための教育を行い、学位論文の作成を指導する。
- (2) 高度な専門的知識と総合的判断能力を持つ職業人を目指す社会人のために「専門職業人養成コース」を設け、教育を行う。本コースでは、必修科目の特別指導演習Ⅰを提供し、学位論文の作成を指導する。
- (3) 十分な社会経験に基づく実践的な研究を行う社会人のために「実践教養コース」を設け、教育を行う。本コースでは、必修科目の特別指導演習Ⅰ及び実践指導演習Ⅰを提供し、学位論文に代わる研究成果の作成を指導する。

3. 授業科目

人権論特論，人権論演習，現代憲法理論，行政の法システム特論，行政の法システム演習，地域行政の法システム，刑法特論，刑法演習，刑事手続法特論，刑事手続法演習，刑事法学特論，刑事法学演習，財産法特論，財産法演習，契約法特論，契約法演習，金融の法システム特論，金融の法システム演習，経営の法システム特論，経営の法システム演習，租税法特論，租税法演習，所得税法・消費税法，法人税法，民事手続法，企業再生法，社会保障法特論，社会保障法演習，法社会学特論，法社会学演習，法実務特論，法実務演習，政治学特論，政治学演習，日本政治史特論，日本政治史演習，法律学特別講義，政治学特別講義，教育と法特論，教育と法演習，特別指導演習Ⅰ，特別指導演習Ⅱ，実践指導演習，行政及び法務・税務実習，外国語論文指導Ⅰ（共通科目），外国語論文指導Ⅱ（共通科目）

4. 教育研究スタッフ－学問領域と研究内容－

- 大野 友也（准教授）憲法：先端科学技術の憲法学的統制についての日米比較研究。
- 森尾 成之（教授）行政法：行政法執行スタイルの日米比較。
- 上原 大祐（准教授）刑法：刑事責任判断と人格同一性概念の関係についての研究。
- 中島 宏（教授）刑事訴訟法：刑事訴訟法の解釈・運用に関する研究。特に、刑事手続きと犯罪被害者の関わり、被告人の訴訟能力など。
- 植本 幸子（教授）民法：信託法理による救済の研究(日米)。
- 松田 忠大（教授）商法：海商法の分野における諸法律問題について研究している。
- 齋藤 善人（教授）民事手続法：民事訴訟法および倒産法の理論的解明。現在の関心は、反訴の国際裁判管轄の問題や、再生法 138 条の訴訟参加と重複訴訟禁止の原則など。
- 鳥飼 貴司（教授）租税法：「納税者の権利」を重視した税法解釈についての研究。
- 伊藤 周平（教授）社会保障法：介護保険法など日本の社会保障立法の法政策的研究。
- 米田 憲市（教授）法社会学：社会科学の諸方法論を意識しながら、司法制度論，専門職論、法実務の構造と動態、AI の影響をふくむ ICT の活用の研究などを行っている。
- 原田 いづみ（教授）法曹実務：法律実務及び弁護士としての実務経験に基づく法曹活躍の領域の研究。ジェンダーと法（性的マイノリティの人権も含む），地方行政とジェンダー政策，加害者家族支援。
- 平井 一臣（教授）政治学・日本政治史：近現代日本の社会運動研究，戦後日韓関係史研究，地域政治研究。

【履修について】

(1) 昼夜開講制

大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例措置（昼夜開講制）の趣旨を積極的に活用し、職業を有する社会人の受入れを行う。

(2) 学位

所定の単位（30 単位以上）を修得し、かつ修士論文又は修士論文に代わる研究成果の審査ならびに、最終試験に合格した者には「修士（法学）」の学位が与えられる。

経済社会システム専攻

1. 経済社会システム専攻（博士前期課程）の教育目標

経済社会システム専攻は、経済・経営・社会という幅広い3つの分野の高度な教育を行い、最新の知識および理論的なフレームワークを習得した社会及び地域に貢献できる人材の養成を教育目標にしている。

2. 経済社会システム専攻の入学受入方針（アドミッション・ポリシー）

①経済社会システム専攻の求める人材像

- 1) 専門的な知識をさらに発展させ、地域や国際社会に貢献しようとしている人
- 2) 社会人としての経験を踏まえた知識の体系化及び問題解決を目指す人
- 3) 大学院修了後、地域や国際社会などで貢献することを目指す人

②入学前に身につけておいて欲しいこと

経済・経営・社会のいずれかの分野の基礎的教養及び体系的な知識の習得

③入学受入の基本方針

専門研究を行っていくための適性や能力を総合的に判断するため、次の方法で入学受入を行う。

1) 一般選抜

学力検査及び面接の結果を総合して選抜する。学業成績証明書等の書類は面接の参考資料とする。

2) 社会人特別選抜

学力検査及び面接の結果を総合して選抜する。学業成績証明書等の書類は面接の参考資料とする。

3) 外国人留学生特別選抜

(1) 学力検査及び面接の結果を総合して選抜する。学業成績証明書等の書類は面接の参考資料とする。

(2) 指定校推薦入試は、面接の結果、成績証明書及び研究計画書などの審査結果を総合して選抜する。

経済社会システム専攻の教育目的・研究内容

1. 教育目的

近年の世界的な経済変動は我が国にも大きな影響を及ぼしているが、南九州は地理的に大都市経済圏から離れたところに位置していることから、産業基盤の脆弱さ、情報化のギャップ、過疎化、高齢化の地域問題が顕在化するとともに、アジア諸国との地理的歴史的緊密さに基づいた経済協力の推進も重要な課題となっている。これらの事態の打開策が地域社会では種々模索されている。

このような地域にかかわる経済的・社会的課題や国際協力に的確に対応するためには、経済社会の構造把握と分析手法の修得、経済政策に対する立案能力や国際経済・国際開発に対する国際的視野の涵養、変動する地域企業や地域社会の動向への対応能力の育成が必要であり、そのために必要な人材を養成することをめざしている。

2. 教育研究内容

本専攻の教育研究分野は大きく二つにわかれている。一つは、地域経済や地域社会の問題を総合的な視点から、より高度の専門性をもたせて教育研究するために、経済理論、経済史、統計学、社会学をベースとして地域の問題に取り組む能力を養成する経済社会分野であり、もう一つが、地域の企業や自治体の現状分析とそれに基づく活性化策の立案能力や国際協力のあり方に関する政策能力の育成を目標とする地域経営分野である。

指導教員による研究指導のもとで、学生はこれらの二つの分野から必要な科目を選択することにより、充実した研究に従事することができる。

(1) 経済社会分野

経済学や社会学の理論や歴史、また統計学や計量分析の手法を駆使して、経済社会の変化のメカニズムを理論的、実証的に分析する能力を育成し、それをもとに将来に向けての政策提言を行える能力を涵養することを目標とする。ミクロ経済学、経済統計論、現代社会論、情報社会論、福祉社会学、社会教育思想論、青少年文化・社会論、日本教育史、比較教育社会史、共生社会の学習論、教育社会学などを主な研究内容とする。

(2) 地域経営分野

情報化、高齢化、地方分権化等が進展するなかで地域企業や地域社会の現状分析とそれに基づく政策立案能力を涵養し、さらに経済の国際化、開発と環境保全の調和を与件として、南九州とアジア諸国の地域振興と国際協力のあり方に関する政策能力の育成を目標とする。農業政策論、租税政策論、国際経済システム論、国際貿易投資論、国際開発経済論、アジア経済、経営管理論、コーポレート・ファイナンス、国際経営論、財務会計論、管理会計論、経営情報論、技術経営などを主な研究内容とする。

3. 授業科目

ミクロ経済学特論、ミクロ経済学演習、計量経済学特論、経済統計論特論、経済統計論演習、世界経済史特論、世界経済史演習、日本経済史特論、日本経済史演習、日本経営史特論、農業政策論特論、農業政策論演習、租税政策論特論、租税政策論演習、租税実務論特論、国際貿易投資論特論、国際貿易投資論演習、国際経済システム論特論、国際経済システム論演習、国際開発経済論特論、国際開発経済論演習、アジア経済特論、アジア経済演習、経営管理論特論、経営管理論演習、コーポレート・ファイナンス特論、コーポレート・ファイナンス演習、国際経営論特論、国際経営論演習、管理会計論特論、管理会計論演習、財務会計論特論、財務会計論演習、現代社会論特論、現代

社会論演習，情報社会論特論，情報社会論演習，福祉社会学特論，福祉社会学演習，社会教育思想論特論，社会教育思想論演習，青少年文化・社会論特論，青少年文化・社会論演習，日本教育史特論，日本教育史演習，比較教育社会史特論，比較教育社会史演習，共生社会の学習論特論，共生社会の学習論演習，教育社会学特論，教育社会学演習，経営情報論特論，経営情報論演習，技術経営特論，技術経営演習，研究指導，特別講義，総合講義，行政及び企業等実務実習，奄美プロジェクト研究，リサーチメソッド，テーマサーベイ，プロジェクト研究Ⅰ，プロジェクト研究Ⅱ

4. 教育研究スタッフ ー学問領域と研究内容ー

石塚 孔信（教授）ミクロ経済学：空間の経済学。ミクロ経済学の理論を空間に応用して企業や商業施設の立地について理論的分析を行う。工業立地や商業立地の近代経済学からのアプローチ。

松川太一郎（教授）経済統計論：統計作成過程における技術的論理的性質と制度的被制約性の分析，並びに，この分析を踏まえた統計の情報性格の解明。

三浦 壮（准教授）日本経済史・経営史：近現代日本の地域工業化と企業経営について研究している。特に，近代産業の資金供給主体と企業の競争力構築過程の解明に力を入れている。

北崎 浩嗣（教授）農業政策論：先進諸国の農業政策と農産物貿易の研究を行うと共に，地域農業や農村活性化策を研究している。

林田 吉恵（教授）租税政策論：主な研究分野は，財政学と租税政策。日本の租税政策について，経済学的アプローチを使い，財務データを用いて実証研究をし，検証を行う。特に公平性の観点から，どのような法人税負担率の指標がよいのかを検証し，その指標が投資にどう影響を及ぼすのかについての研究をしている。

山本 一哉（教授）国際貿易投資論：東アジア諸国の為替制度・政策についての研究。

西村 知（教授）国際開発経済論：発展途上国の抱える経済的問題。ここ数年は，フィリピン稲作農村における近代化，経済のグローバル化の影響について。

王 鏡凱（准教授）経営管理論：組織に関する情報の非対称性問題とインセンティブ問題を研究している。

〃（〃）コーポレート・ファイナンス：企業価値最大化の観点から，企業の事業戦略（事業価値評価）や財務戦略（資金調達と利益還元）を研究している。

日野 道啓（准教授）国際経済システム論：国際環境政策を中心とする国際経済政策の政策効果および制度設計に関する研究。

澤田 成章（准教授）財務会計論：会計基準の国際的なコンバージェンスなどにより，日本の会計基準は変革の波に晒されている。こうしたなかで，会計基準の変更が①学問的な観点，②企業の会計行動の観点，③企業の事業活動の観点からどのような影響を生み出すかについて分析し，検討している。

北村 浩一（教授）管理会計論：企業予算を主たる研究対象とした管理会計・管理会計論研究。1920年代のアメリカ初期企業予算の分析を基軸に据えて，管理会計的側面から企業予算を発展史的に解明することを目的としている。

城戸 秀之（教授）現代社会論：現代社会の特徴は加速してゆく変化とその影響の大きさにあるが，これを社会学の観点からとらえて，現代社会の問題点を考察することを研究課題としている。

- 桑原 司（教授）情報社会論：コミュニケーションの社会心理学的研究。シカゴ学派シンボリック相互作用論の研究。
- 片桐 資津子（教授）福祉社会学：日本・米国・中国における超高齢社会の家族と地域社会に関する福祉社会学研究。活動的高齢者のウェル・ビーイングと要介護高齢者のクオリティ・オブ・ライフに目配りをして、豊かな社会の諸条件について、国際比較の観点から、インテンシヴな手法で探究している。
- 農中 至（准教授）社会教育思想論：戦後日本の社会教育（学校外教育・成人教育・地域学習を含む）実践・活動の実態分析および戦後社会教育実践における原理・理念の歴史的研究を北部九州地方の旧産炭地に注目しながら進めている。
- 金子 満（准教授）青少年文化・社会論：子どもや若者の主体形成に関する研究。学校地域連携に関する研究。住民自治やコミュニティ再生に関する研究。韓国の平生学習に関する研究。
- 杉原 薫（准教授）比較教育社会史：福祉と教育の接合点に関心があり、19世紀末から20世紀初頭のドイツにおける女性を対象とした職業教育や児童福祉の実態分析に関する歴史研究に取り組んでいる。
- 平野 拓朗（講師）共生社会の学習論：教授・学習と発達との関係を教育方法学的観点から研究している。特に、ロシアの心理学者ヴィゴツキーや彼以後のポスト・ヴィゴツキアンの学習論を理論的基盤とし、教育方法を結果（成果）のための手段としてではなく、結果と手段の弁証法的運動として位置づけ、再考することを進めている。
- 濱沖 敢太郎（講師）教育社会学：勤労青少年の社会移動に関する歴史的研究を、特に1960年代の制度的条件（法令整備やそれに関わる諸アクターの利害関係など）と、その現代への影響に注目しながら進めている。
- 萩野 誠（教授）経営情報論：情報技術の発達と企業の経営戦略との関連を分析している。特に情報システムの構成に着目し、技術に対応したシステムの構成をさぐっている。
- 市川 英孝（准教授）技術経営：企業が付加価値の最大化を実現するための価値創造と価値獲得についての研究。具体的にはイノベーションが成功する複合的な要因について考察を行っている。

【履修について】

（1）昼夜開講制

大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例措置（昼夜開講制）の趣旨を積極的に活用し、職業を有する社会人の受入れを行う。

（2）学 位

本専攻において、所定の単位（30単位以上）を修得し、かつ「修士論文」の審査ならびに最終試験に合格したのものには「修士（経済学）」「修士（社会学）」の学位が与えられる。

人間環境文化論専攻

国際総合文化論専攻

1. 人間環境文化論専攻（博士前期課程）の教育目標

人間環境文化論専攻は、人間の行動、現代文化、地域、環境、人類についての専門知識を有し、社会・文化環境の変化を適切に理解し、地域の発展と良好な環境の形成に貢献できる人材の養成を教育目標にしている。

2. 人間環境文化論専攻の入学受入方針（アドミッション・ポリシー）

①人間環境文化論専攻の求める人材像

- 1) 自然、文化、歴史的環境、人間の行動についての基礎的教養を習得しており、それを専門的な知識へ発展させる意欲を持つ人
- 2) 自然や文化、歴史、地域社会、人間行動等のより深い理解を目指し、それをフィールドワークや実験等の方法を用いて、環境や地域の観点から考察する意欲を持つ人
- 3) 専門的な知識を実践的な問題解決に活かす意欲を持つ人

②入学前に身につけておいて欲しいこと

- 1) 心理学・現代文化論・地理学・考古学・基層文化論等のうち志望する専門分野に関する学部レベルの基礎的な知識
- 2) 論文作成に必要な批判的読解能力、基本的分析力、及び文章表現能力
- 3) 志望する専門分野に必要な語学（古典語を含む）。

③入学選抜の基本方針

人間環境文化論専攻で研究を開始するのに十分な人文社会科学の基礎的教養や専門知識を有しているか、より高度な専門研究を行っていくための適性や計画などの有無を総合的に判断するため、次の方法で入学選抜を行う。

1) 一般選抜

学力検査及び面接の結果を総合して選抜する。学業成績証明書等の書類は面接の参考資料とする。

2) 社会人特別選抜

学力検査及び面接の結果を総合して選抜する。学業成績証明書等の書類は面接の参考資料とする。なお、特に面接を重視する。

3) 外国人留学生特別選抜

(1) 学力検査及び面接の結果を総合して選抜する。学業成績証明書等の書類は面接の参考資料とする。なお、特に面接を重視し、日本語能力も審査する。

(2) 指定校推薦入試は、面接の結果、成績証明書及び研究報告書などの審査結果を総合して選抜する。

1. 国際総合文化論専攻（博士前期課程）の教育目標

国際総合文化論専攻は、日本及び世界の思想、言語、文学、歴史についての専門知識を有し、国際的・総合的視野をもって文化交流を担い、日本文化を発信できる人材の養成を教育目標としている。

2. 国際総合文化論専攻の入学受入方針（アドミッション・ポリシー）

①国際総合文化論専攻の求める人材像

- 1) 日本及び世界の諸文化について基礎的教養を習得しており、それを国際的な視野から専門的な知識へ発展させる意欲を持つ人
- 2) 日本及び世界の諸地域の思想、言語、文学、歴史等について国際的・総合的な視野に立ち、今日の社会と文化の国際化に適切に対応する意欲を持つ人
- 3) 国際交流に寄与する専門的な知識を実践的な問題解決に活かす意欲を持つ人

②入学前に身につけておいて欲しいこと

- 1) 史学・文学・言語学・哲学のうち志望する専門分野に関する学部レベルの基礎的な知識
- 2) 論文作成に必要な批判的読解能力、基本的分析力、及び文章表現能力
- 3) 志望する専門分野に必要な語学（古典語を含む）

③入学受入の基本方針

国際総合文化論専攻で研究を開始するのに十分な人文社会科学の基礎的教養や専門知識を有しているか、より高度な専門研究を行っていくための適性や計画などの有無を総合的に判断するため、次の方法で入学受入を行う。

1) 一般選抜

学力検査及び面接の結果を総合して選抜する。学業成績証明書等の書類は面接の参考資料とする。

2) 社会人特別選抜

学力検査及び面接の結果を総合して選抜する。学業成績証明書等の書類は面接の参考資料とする。なお、特に面接を重視する。

3) 外国人留学生特別選抜

(1) 学力検査及び面接の結果を総合して選抜する。学業成績証明書等の書類は面接の参考資料とする。なお、特に面接を重視し、日本語能力も審査する。

(2) 指定校推薦入試は、面接の結果、成績証明書及び研究報告書などの審査結果を総合して選抜する。

人間環境文化論専攻・国際総合文化論専攻の教育目的・研究内容

【人間環境文化論専攻】

1. 教育目的

急速に進行しつつある少子高齢化傾向の拡大，情報化，国際化，価値観の多様化，産業構造の変化は，家庭，地域社会，学校における伝統的な社会・文化環境との適応関係に深刻な影響を及ぼし，家庭及び地域社会の教育力の低下，地域社会の共同体意識の希薄化，世代間の隔絶，いじめ・不登校の増加等の問題を引き起こしている。

これらの社会的な問題の解決のため，心理，メディア，現代文化，地理，考古，民俗等の授業科目を設け，社会や文化の変化に対する把握力・理解力・分析力，人間行動に対する心理学的理解力，問題行動に対するカウンセリングなどの援助能力，伝統文化に対する理解力と保存方法等について教育研究を行う。

2. 授業科目

専門分野	専門科目 ^{注)}	授 業 科 目
心 理 学	心 理 学	認知心理学特論，認知心理学特論演習，比較心理学特論，比較心理学特論演習，社会心理学特論，社会心理学特論演習，臨床心理援助特論，臨床心理援助特論演習，生涯発達心理学特論，生涯発達心理学特論演習，消費者心理学特論，消費者心理学特論演習，心身医学特論，心身医学特論演習，神経科学特論，神経科学特論演習，コミュニティ援助特論，コミュニティ援助特論演習，産業・組織心理学特論，産業・組織心理学特論演習，スポーツ心理学特論，スポーツ心理学特論演習，行動臨床心理学特論，行動臨床心理学特論演習
現代文化論	現代文化論	現代メディア文化特論，現代メディア文化特論演習，多文化交流特論，多文化交流特論演習，言語文化特論，言語文化特論演習，社会言語特論，社会言語特論演習，ポピュラーカルチャー特論，ポピュラーカルチャー特論演習，表象文化特論，表象文化特論演習，書籍文化特論，書籍文化特論演習，音楽教育文化特論，音楽教育文化特論演習，デザイン特論，デザイン特論演習
地域環境論	地 理 学	自然地理学特論，自然地理学特論演習，人文地理学特論，人文地理学特論演習，環境地理学特論，環境地理学特論演習，考古学特論，考古学特論演習，物質文化特論，物質文化特論演習，考古学地域特論，工芸特論，工芸特論演習，内陸アジア地域研究特論，内陸アジア地域研究特論演習，文化人類学特論，文化人類学特論演習，宗教学特論，宗教学特論演習
	考 古 学	
	基層文化論	
必 修	人間環境文化論特論（1年次） 論文指導（2年次）	
共 通	人文プロジェクト演習，行政・企業体験特論実習，外国語論文指導Ⅰ，外国語論文指導Ⅱ	

注)「専門科目」とは入学試験の受験の単位である。

3. 教育研究スタッフ ー学問領域と研究内容ー

- 横山 春彦（准教授）認知心理学：人間の認知の活動（知覚、記憶）を研究対象としている。
- 富原 一哉（教授）比較心理学・神経科学：主に社会行動の基礎的メカニズムに関して、生物学的視点から研究を行っている。
- 大藪 博記（准教授）社会心理学：主に協力関係の構築に関して、進化・適応論的視点を重視した実証的研究を行っている。
- 飯田 昌子（准教授）臨床心理学：児童・思春期における心理的問題、児童虐待及び危機介入の方法論について研究を行っている。
- 安部 幸志（教授）生涯発達心理学：高齢期における精神的健康・介護・自殺等の問題を臨床的視点および地域介入の視点から研究している。
- 山崎真理子（准教授）消費者心理学・食行動の心理学：社会的場面における食関連行動について、実験室実験を中心とした研究に取り込む。
- 米田 孝一（教授）心療内科学：心身症、身体症状症、PTSD、適応障害などに対する治療実践とメカニズムの研究を行っている。
- 菅野 康太（准教授）行動神経科学・生物学：マウスの雌雄間や母仔間の超音波音声コミュニケーションを主軸に、社会行動とその神経メカニズムを、遺伝子、内分泌、神経回路のレベルで研究している。
- 平田祐太郎（准教授）臨床心理学・コミュニティ援助論：教育・福祉領域に関する子どもの心理社会的課題及び支援について研究を行っている。
- 榎原 良太（准教授）産業・組織心理学：職場における感情の機能やそれがメンタルヘルスへ与える影響について研究している。
- 藤田 勉（准教授）スポーツ心理学：スポーツにおける心理現象について、意識的および非意識的な動機づけの個人要因や環境要因の研究を行っている。
- 肥後 祥治（教授）行動臨床心理学：行動分析を用いての行動障害への評価や介入、障害のある人の行動形成および保護者支援システムの開発の研究を行っている。
- 櫻井 芳生（教授）現代メディア文化論：現代文化の諸相を、メディア論・社会システム論などの視点から研究。現状分析ならびに理論考究の双方に関心をもつ。
- 中島 祥子（准教授）日本語教育・異文化間教育：日本語教育を中心に、多文化環境における協働授業や外国人に対する方言教育などについて研究を行っている。
- 太田 一郎（教授）社会言語学、メディアとことばの研究、方言学：ことばと社会の関係を、ことばのバリエーションおよびメディアにおける言語使用の点から研究している。
- 太田 純貴（准教授）ポピュラーカルチャー論：メディアテクノロジーと人間の関わり、メディア文化の（非）連続性といった内容について、美学芸術学やメディア考古学といった観点からアプローチを行っている。
- 竹岡 健一（教授）出版学：廉価図書販売組織であるブッククラブを中心に、書籍の出版・販売・読書などについて研究している。
- 今 由佳里（准教授）音楽教育学：海外と日本の音楽教育について比較研究している。近年は、リトミックを中心としたスイスの学校音楽教育を研究対象としている。
- 和田 七洋（准教授）デザイン：ポスター、雑誌、各種広告などの紙媒体を扱うグラフィックデザインを中心とする平面デザイン全般を研究対象とする。
- 吉田 明弘（准教授）自然地理学：第四紀における自然環境の時間・空間的な変遷史について、地形・地質学や古生物学、年代学などの手法から研究している。

- 小林 善仁（准教授）歴史地理学：日本の歴史的都市（城下町・境内地）を対象に，景観の形成と変容，地域構造，地域性と共通性について研究している。
- 永迫 俊郎（准教授）環境地理学：地表上に描かれた模様を研究する地理学において最重要概念である地域について，最近は琉球列島を主なフィールドに探究している。
- 石田 智子（准教授）考古学：九州を中心とする東アジアの先史時代を対象に，物質文化動態と社会変化の関係を研究している。胎土分析方法の開発と実践も進めている。
- 渡辺 芳郎（教授）物質文化論：物質文化から見た文化交流・文化変容，および物質文化と社会との関係について，東アジアをおもなフィールドとして研究する。
- 清水 香（准教授）工芸論：工芸のなかでも現代陶芸について，作品制作を中心に技法と素材の関係性を研究している。
- 尾崎 孝宏（教授）比較文明論：モンゴルから北部中国をフィールドに，牧民社会の近代化プロセス，移動と定住，エスニシティ論について研究。
- 兼城 糸絵（准教授）宗教文化論：中国南部を主な調査地として，人の移動と地域社会の変容について宗教的側面から研究。また，災害と民俗文化に関する研究も行っている。

【国際総合文化論専攻】

1. 教育目的

民族紛争・貿易摩擦の多発，外国人留学生・外国人労働者の急増などにみられる国際化の進展によって，異民族，異文化間の接触が活発となり，文化交流が盛んになる一方，文化摩擦も生じている。

このような文化の国際化という状況に適切に対応するために，日本および世界の諸国の思想，言語，文学，歴史等を多角的に，グローバルな視点に立って教育研究する。これによって，国際的・総合的な視野をもって文化交流を担い，日本文化を発信することのできる人材を育成する。

2. 授業科目

専門分野	専門科目 ^{注)}	授 業 科 目
日本アジア 歴史学	日本史学	日本政治宗教史特論，日本政治宗教史特論演習，日本社会史特論，日本社会史特論演習，日本文化史特論，日本文化史特論演習，アジア社会史特論，アジア社会史特論演習，アジア文化史特論，アジア文化史特論演習
	東洋史学	
日本アジア 文学・語学	日本語・日本文学	日本文化特論，日本文化特論演習，日本古典文学特論，日本古典文学特論演習，日本語文化特論，日本語文化特論演習，日本語学特論，日本語学特論演習，中国文学特論，中国文学特論演習，中国文献学特論，中国文献学特論演習，中国言語文化特論，中国言語文化特論演習，中国語学特論，中国語学特論演習
	中国語・中国文学	
ヨーロッパ・ アメリカ文化学	哲学	思想文化特論，思想文化特論演習，近代思想特論，近代思想特論演習，倫理思想特論，倫理思想特論演習，現代史特論，現代史特論演習，ヨーロッパ・アメリカ比較社会史特論，ヨーロッパ・アメリカ比較社会史特論演習，比較文学特論，比較文学特論演習，英語構造特論，英語構造特論演習，イギリス文学特論，イギリス文学特論演習，アメリカ文学特論，アメリカ文学特論演習，英語指導法特論，英語指導法特論演習，アイルランド・イギリス演劇特論，アイルランド・イギリス演劇特論演習，英語文学特論，英語文学特論演習，現代ドイツ文学特論，現代ドイツ文学特論演習，比較都市社会特論，比較都市社会特論演習，比較文化特論，比較文化特論演習，ドイツ語圏音楽文化特論，ドイツ語圏音楽文化特論演習，現代ヨーロッパ・アメリカ文化特論，現代ヨーロッパ・アメリカ文化特論演習，比較音楽文化特論，比較音楽文化特論演習
	西洋史学	
	英語・英米文学	
	ドイツ語・ ドイツ文学	
	フランス文化	
必 修	国際総合文化論特論（1年次） 論文指導（2年次）	
共 通	人文プロジェクト演習，外国語論文指導Ⅰ，外国語論文指導Ⅱ，行政・企業体験特論実習	

注)「専門科目」とは入学試験の受験の単位である。

3. 教育研究スタッフ 一学問領域と研究内容一

- 日隈 正守(教授) 日本史学: 平安・鎌倉時代を中心に政治権力と宗教勢力との関係に関心を持ち、国司や守護と国一宮との関係を国一宮に伝わる文書を中心に調べている。
- 佐藤 宏之(准教授) 日本史学: 近世大名の「御家」意識・「家」戦略, 御家騒動を伝えるメディアから「歴史的記憶」の形成・変容過程に関する研究を行っている。
- 金井 静香(教授) 日本中世史: 日本中世における公家・寺社の政治的・社会的地位について、彼らの経済基盤であった荘園を主な検討対象として研究している。
- 福永 善隆(准教授) 東洋史学: 中国古代(漢代)における皇帝支配の展開について、官僚制度を中心として政治史・制度史的視点から研究を行っている。
- 大田由紀夫(教授) 東洋史学: 中国を中心とした13~16世紀の東アジア経済史を研究。
- 丹羽 謙治(教授) 日本近世文学: 江戸時代後期の戯作文学を中心として、遊里や出版といった文化史的な事象についても研究している。
- 亀井 森(准教授) 日本近世文学: 江戸時代における学問・文芸の諸相, 特に後期の国学・和歌の実態を研究し、国学者の伝記・人物研究を行っている。
- 内山 弘(教授) 文献日本語史: 主に中世の文献資料を対象として、音韻論を中心とした日本語の史的研究を行っている。
- 梅崎 光(准教授) 日本語学: 中世から近代にいたる日本語の語彙・表記を主な研究対象とする。
- 高津 孝(教授) 中国語学・中国文学: 宋代の文学及び中国文字学を主な研究対象としている。
- 大淵 貴之(准教授) 中国文学: 類書の編纂や利用の様態を主な研究対象としている。
- 中筋 健吉(准教授) 中国文学: 六朝隋唐期の文論を主な対象として研究を進めている。
- 三木 夏華(准教授) 中国語学: 現代中国語語法, 方言を主な研究対象とする。
- 近藤 和敬(准教授) 思想文化論: 現代ヨーロッパにおける哲学思想について、理論的, 社会的, 歴史的観点から研究を行っている。
- 柴田 健志(教授) 近代思想論: 西欧近代における自然観の展開, それに伴って生じた人間の存在にかんする理解の変遷を, 哲学的に考察している。
- 新名 隆志(准教授) 哲学・倫理学: ニーチェ思想の研究およびそれと関連する人生の意味や幸福に関する哲学的研究, また、応用倫理的トピックの研究を行っている。
- 細川 道久(教授) 西洋史学: カナダの歴史を, イギリス帝国・連邦史と大西洋関係史の文脈から考察している。
- 藤内 哲也(教授) 西洋史学: 中・近世のイタリア, とりわけヴェネツィアを対象に, 社会構造や権力関係の変容過程とその特質について考察している。
- 井原慶一郎(教授) 比較文学: 英文学と日本文学, 小説と映画など, エリア, ジャンル, ディシプリンを横断した文化研究をおこなっている。
- 末松 信子(准教授) 英語学: 18世紀英語を中心に, 近代英語から現代英米語までを対象として, その実態を歴史・社会言語学的視点から研究。
- 大和 高行(教授) イギリス文学: 近代初期のイギリス演劇, シェイクスピアを中心とする英国歴史劇を研究中。
- 竹内 勝徳(教授) アメリカ文学: 現代批評理論に依拠して, 19世紀アメリカン・ルネサンス文学や20世紀モダニズム文学を中心に研究している。
- スティーブン・コーダ(教授) 英語教育・英語指導法: 日本の中学・高校・大学における英語指導法または英語教員養成を中心に研究。(指導は全て英語で行う。)

丹羽 佐紀（准教授）イギリス初期近代演劇：シェイクスピアの作品を中心とするイギリス初期近代演劇の研究，および同時代の歴史的・文化的背景に関する研究。

千代田夏夫（准教授）アメリカ文学：米国モダニズム文学を中心に，英国文学やアイルランド文学との相関性も踏まえつつゴシック，人種，ジェンダー等のテーマで研究を行っている。

中島 大輔（教授）ドイツ言語文化論：主としてドイツ・ロマン派文学及び戦後のドイツ文学をそれぞれの社会との関係において研究している。

與倉アンドレア（教授）オーストリア／ドイツ文学：オーストリア現代文学およびドイツ語教授法に関する研究を行っている。

梅林 郁子（准教授）音楽学：19世紀後半にオーストリアで活動した作曲家（主にヴォルフ）の作品や書簡，並びに作曲家を支援した人々の状況を研究している。

梁川 英俊（教授）フランス文化史：ブルターニュを中心とするヨーロッパのケルト諸地域の言語・歴史・文化を研究している。

【履修について】

(1) 昼夜開講制

大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例措置（昼夜開講制）の趣旨を積極的に活用し，職業を有する社会人の受入れを行う。一般選抜の学生も，担当教員との合意のうえ，夜間開講授業の受講が必要となる場合がある。

(2) 学位

所定の単位（30単位以上）を修得し，かつ修士論文の審査ならびに，最終試験に合格した者には次の学位が与えられる。

[人間環境文化論専攻] 修士（文学）

[国際総合文化論専攻] 修士（文学）

指定校推薦入試用

2022年10月入学 鹿児島大学大学院人文社会科学研究科入学願書
(博士前期課程)

ふりがな			*	
氏名			受験番号	
英語氏名				
生年月日	年 月 日 (歳)	男・女	国	籍
志望専攻	<input type="checkbox"/> 法 学 専 攻	入学後希望する専門分野 ^{注)}		
	<input type="checkbox"/> 経 済 社 会 シ ス テ ム 専 攻			
	<input type="checkbox"/> 人 間 環 境 文 化 論 専 攻	心理学： <input type="checkbox"/> 心理学 現代文化論： <input type="checkbox"/> 現代文化論 地球環境論： <input type="checkbox"/> 地理学 <input type="checkbox"/> 考古学 <input type="checkbox"/> 基層文化論		
	<input type="checkbox"/> 国 際 総 合 文 化 論 専 攻	日本アジア歴史学： <input type="checkbox"/> 日本史学 <input type="checkbox"/> 東洋史学 日本アジア文学・語学： <input type="checkbox"/> 日本語・日本文学 <input type="checkbox"/> 中国語・中国文学 ヨーロッパ・アメリカ文化学： <input type="checkbox"/> 哲学 <input type="checkbox"/> 西洋史学 <input type="checkbox"/> 英語・英米文学 <input type="checkbox"/> ドイツ語・ドイツ文学 <input type="checkbox"/> フランス文化		
出願資格	大学	学部	学科	在学中 2022年 月 日卒業見込み
推薦者			推薦者と受験者の 関係	
現住所				写真貼付欄 正面上半身無帽で、出願前3か月以内に撮影したもの。 (縦4.5cm×横4cm) 写真の裏面に氏名を記入し貼付。
	電話番号(自宅)	— —	(携帯)	— —

履 歴 事 項		年 数	学 校 名 及 び 勤 務 先 名 等
期 間	年 月		
年 月	年 月		
年 月	年 月		
年 月	年 月		
年 月	年 月		
年 月	年 月		
年 月	年 月		

(入学願書記入上の注意)

- ※印欄は、記入しないこと。
- 欄は、該当するものに、✓印を付けること。
- 履歴事項は、高等学校入学時から職歴も含め記入すること。
- 提出された書類については、学務業務のために利用し、他の目的には使用しない。

注) 人間環境文化論専攻・国際総合文化論専攻については、各専攻の「授業科目」の表(20頁と23頁)にある「専門科目」の欄から一つを選んで✓印を付けること。

指定校推薦入試用

2022年10月入学
鹿児島大学大学院人文社会科学研究科
(博士前期課程)

写 真 票

受験番号	※	在籍大学	
ふりがな			男 ・ 女
氏名			
志望専攻	専攻		

写真貼付欄
正面上半身無帽で、出願前3か月以内に撮影したもの。 (縦4.5cm×横4cm) 写真の裏面に氏名を記入し貼付。

-----切りはなさないこと-----

指定校推薦入試用

2022年10月入学
鹿児島大学大学院人文社会科学研究科
(博士前期課程)

受 験 票

受験番号	※	在籍大学	
ふりがな			男 ・ 女
氏名			
志望専攻	専攻		

写真貼付欄
正面上半身無帽で、出願前3か月以内に撮影したもの。 (縦4.5cm×横4cm) 写真の裏面に氏名を記入し貼付。

-----切りはなさないこと-----

(注意事項)

1. ※印欄は、記入しないこと。
2. 受験票は、入学検定料の納入を確認後に窓口教員宛に送付されるので、窓口教員から受け取り、試験当日は受験票を必ず持参すること。
3. 受験票は、入学手続きの際必要となるので紛失しないこと。

A series of 20 horizontal dashed lines spanning the width of the page, providing a template for handwriting practice.

A series of 20 horizontal dashed lines spanning the width of the page, intended for writing.

A series of 20 horizontal dashed lines spanning the width of the page, providing a template for handwriting practice.

A series of 20 horizontal dashed lines spanning the width of the page, providing a template for writing.

A series of 20 horizontal dashed lines spanning the width of the page, providing a template for writing.

履 歴 書

ふりがな 氏 名	年 月 日 (満 才)	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	在留資格 (予定を含む) <input type="checkbox"/> 留 学 <input type="checkbox"/> 家族滞在 <input type="checkbox"/> その他()	写真貼付欄 正面上半身無帽で、 出願前3か月以内に 撮影したもの。 (縦4.5cm×横4cm) 写真の裏面に氏名を 記入して貼付。
		サイン		
国 籍				
現 住 所 電 話 番 号	☎			
帰省先住所 電 話 番 号	☎			

学 歴

	学校名及び所在地	修学年限	入学及び卒業年月	専攻科目	学位・資格等
初等教育 小 学 校	学校名 所在地	年	年 月入学 年 月卒業		
中等教育 中 学 校 高等学校	学校名 所在地 学校名 所在地	年 年	年 月入学 年 月卒業 年 月入学 年 月卒業		
高等教育 大 学	学校名 所在地	年	年 月入学 年 月卒業		
大学院	学校名 所在地	年	年 月入学 年 月修了		

職 歴

勤務先及び所在地	勤務期間	役職名	勤務内容
勤務先名 所在地	自 年 月 至 年 月		
勤務先名 所在地	自 年 月 至 年 月		

家 庭 状 況

氏 名	続 柄	年 令	職 業	住 所

免 許 ・ 資 格

取得年月	免許・資格

そ の 他

本人希望記入欄

(記入上の注意)

1. 欄は、該当するものに✓印を付けること。
提出された書類については、学務業務のために利用し、他の目的には使用しない。